

森林工芸館の

あれこれ

no.27
6
2022

一九八四年の怒涛の一年からさらに翌年裏作工芸として始まったオケクラフトですが次第に専門を目指す人々が現れてきます

町では研修制度の充実を図り流通販売について学ぶなどその動きは加速します

そして一九八八年オケクラフトの販売施設として

「オケクラフトセンター森林工芸館」が開館します

今回のあれこれでは森林工芸館オープンまでの歴史と森林工芸館に求められた目標や機能について見ていきます

NO.4 オケクラフトの歴史 Since.1983

裏作工芸から生業（専業）への動き

OKE
CRAFT
オケクラフト

人と、木と、おけと

pick up

1985 年

- ◎ 白い器オケクラフト展（第7回町民憲章推進大会併設）
- ◎ とれびあん ^{pick up} 白い器料理教室
- 8月 ◎ 秋田小学校木製学校給食器試用開始
→前年より検討と試作を重ねられた木製給食器による給食が秋田小学校で開始される

1986 年

- ◎ 北っ子オケクラフト展（第8回町民憲章推進大会併設）
- ◎ 地域産業生産技術研修奨励金支給要領制定
- ◎ 第1回オホーツク木のフェスティバル参加
- ◎ 白花豆焼酎・山ぶどうワイン発売
- ◎ 日本の百一村展参加
- ◎ 日本文化デザイン会議地域文化デザイン賞
→資源の見直しから生まれたオケクラフトを軸にした、生産教育構想の具現化により活路を開いた知恵と推進力に対し、「日本文化デザイン賞」が贈られた

1987 年

- ◎ オケクラフト研修（3年研修）開始
→研修期間は3年に延長され、生産技術に加え、販売流通に対する研修も含まれるようになった
- ◎ 「道新」北海道クラフトグランプリ地域奨励賞
- ◎ オケクラフトサロン
- 2月 ◎ 第9回町民憲章推進大会 ^{pick up} 講師に秋岡芳夫氏
→「いいもの・ほいしいもの - 木・食・まちのデザイン -」
【ホッコのフォーラム置戸】 ^{pick up}
【ホッコオケクラフト展・味のフォーラム】同時開催

1988 年

- ◎ オケクラフトセンター森林工芸館オープン ^{pick up}
→流通普及協会の発足
- ◎ オケクラフトサロン（秋岡芳夫氏）
- ◎ 工芸指導員の配置

とれびあん

昭和五十九年に、料理研究家の山崎純子氏を招いて「地場産物でホームレストランの味を」と、料理講習会が開かれたのがきっかけで結成された郷土料理研究グループ。地元で採れる素材を使って、まず世界の料理を知ろうと、世界各国の料理九十種以上を試作研究。これを基に、置戸の味覚作りと新しいおふくろの味の普及、定着を図るため、小学生、主婦等を対象とした「白い器料理教室」などを開催。現在「とれびあん」の活動は不定期。

pick up 1987

ホッコのフォーラム置戸 町民憲章推進大会



【ホッコのフォーラム置戸】



【ホッコオケクラフト展】



【第9回町民憲章推進大会】

裏作工芸として始まった置戸のクラフト生産は、展示会の成功や研修制度、生産環境の整備が進められていく中で、次第に経済性を追求した専業を目指す人々が現れ、個人生産工房の開設など、産業的な展開が始まってきた。このような中で、町内で生産される商品を一度に見る事ができる技術の研究、開発作り手の養成・デザイン開発・流通販売の研究といった目的をもつ施設として「オケクラフトセンター森林工芸館」が開館した。



【森林工芸館開館式】